

三野やすひろ ネットワークだより

社会新報号外

発行所
社会民主党全国連合機関紙宣伝局
機関紙(永続日発行)
〒100-8909
東京都千代田区木下町1-3-1
電話03(3850)1171
販売00110-1-2203
●定価 180円 ●1ヶ月700円
●送料160円

三野康祐 後援会

後援会事務所 高松市東八七町 12-11 竹内ビル
TEL 865-2133 FAX 865-4311
中野町事務所 高松市中野町 34-6 TEL 837-3655 FAX 837-3100

皆さん、こんにちは！
私は、三野康祐(やすひろ)と申します。
今回、政治家として県政に参画しようとした決意をしました。そのきっかけは、「今日の県の財政危機に陥った原因に対して、県が十分な分析もせず、誰も責任を取る姿勢が見えず、再建に向けての展望もないことに対して、何とかしなければならぬ」という思いからです。
私も県庁に二五年間勤めてまいりましたが、一職員として、これまでの県の姿勢は国の言いなりで、香川県の特徴を生かした本場に県民が望むサービスを提供してきたとは言い難いと考へ、同じ志を持つ職員とともにそのことを県に対して提言し続

ご挨拶



やすひろ
三野康祐

けてきました。しかし、内部からの改革は限界があります。
今、この時期に県政の運営を改革しなければ、子や孫の時代に大変なことになるという思いで決意をしたところです。
幼少の頃から、父(優美)の政治活動を家族の一員として見てきて、政治の厳しさ、苦勞は十分に知っており、覚悟の上での決意です。自分自身を厳しく律しながら政治家として歩んでいきます。
未だ、未熟者ではありますが、「将来を見据えた政治」「子や孫の将来世代が希望を持てる県政の実現」のために、精一杯努力してまいります。
ぜひ、皆様のご指導、ご支援により「三野やすひろ」を政治家として育てていただきたいと存じます。

合併で広くなった新高松市

選挙区も8月の県議補選から 拡がることに決定!

「高松市」は「塩江町」「香川町」「香南町」「国分寺町」「庵治町」「牟礼町」との合併により、人口42万人、面積375.09km²の「新高松市」に拡がりました。

それに伴い、地方議員の選挙区の区割りも見直されました。

市議会選挙は、特例で増員選挙と2007統一選挙については、小選挙区で行われます。(2011年以降は、市全体で実施されます)

しかし、県議会選挙の場合は、公職選挙法で原則として「選挙区は郡・市単位に区分けする」ことになっており、昨年11月県議会で正式に「旧高松市に6町が加わった新高松市」+「直島町」の新高松市選挙区で実施されることに決定されました。

現在、新高松市選挙区は、1名の欠員となっており、8月に知事選挙と併せて県議会議員補欠選挙が実施されます。

さらに、来年4月には、第16回統一自治体選挙による香川県議会選挙(任期満了選挙)が行なわれます。



新高松市

合併が進む中、県が市・町との役割分担をどうつくるのか？ 市・町をどのように補完していくのか？

— これから10年間で大切なことです！ —



これから、向こう10年間、市町合併が進む中、基礎自治体である市・町を補完する役割としての広域自治体【県】の役割の議論が非常に重要になってきます。

地方分権の中で、一番重要なのは、住民と身近に接する基礎自治体である市・町の権限を強め、それと同時に財政基盤も強固にし、市・町の基盤を強化することが大事です。

それに向けて、これから10年間で非常に重要になります。

お金がないから、市・町は合併する、市町が合併して、大きくなってみても、気をつけないと、大きくなり過ぎ、一極集中により周辺地域は、過

疎化が進み、田んぼは荒れ放題、河川は草茫茫々。土砂の堆積、山林は竹林が繁殖し、災害の発生、環境破壊、保水力の低下の大きな原因になっていきます。

また、香川が商売のテストケースとなっている大型店の郊外進出で中心市街地は空洞化、郊外は農地の減少が進んでいきます。今後、人口減少や高齢化社会を迎えるにあたって、コンパクトなまちづくりや地域コミュニティづくりが求められており、将来を見据えた都市計画ビジョンが必要

です。私は、道州制については、慎重に議論を進めていかないといけないと考えています。基礎自治体である市・町の基盤強化が中途半端のままでの道州制の導入は、「地方をますます切り捨てる」だけになる可能性があります。

私は、市町合併が進行していく中で、過疎、環境、災害、雇用、教育、子育て、医療・福祉、まちづくり対策としての県の役割がまだまだ必要であると考えています。

県もお金がありません。だからこそ多額の借金につながる大規模事業を行うのではなく、事業費規模は小さくても、香川県民の生活に直結する生活密着型の事業を展開すれば、そのことが地方の雇用を生み出し、環境を守ることに、地方の活性化につながると思っております。

金制度、起債（借金）制度をどうするか。議論抜きに、安易に道州制にすれば、「国の借金のツケを地方に回し」て、乗り切ろうとする道具としてしか機能しないことになってしまいます。そのためにも、私は、これから10年間で非常に大切な時期になると考えており、その一翼をぜひ担わせていただければと思います。



都市計画・公共事業・地方分権の専門家
法政大学法学部教授
五十嵐 孝喜

理論的ファイター三野君に期待する！

三野君と出会ったのは、地方分権講座で香川に呼ばれた時だ。その時、彼の香川県の財政分析の発表を聞いて「地方にも的確に分析する人材がいる」とびびりした。彼のような人材が地方議会で議論を巻き起こしていけば、破産寸前の地方自治体にも灯りがともる。

これ以上、大規模公共事業を展開することはとても無理だ。貴重な財源は県民の真の幸せのための福祉などにまわさなければならぬ。みんな、理論的ファイター、三野君を県議会に送り込もう。



元衆議院議員
元県議会議員
三野 優美

ご無沙汰しております。お元気で過ごしてはいかがでしょうか。今回、息子（康祐）が、「政治の世界」を目指すこととなりました。子供の頃から私の政治生活を見ておりますので、その厳しさは十分知っております。皆様方のご指導をいただき一人前に育てていただきますようお願いいたします。

三野やすひろプロフィール

- 昭和31年に塩江町で生まれる。
- 塩江小学校、紫雲中学校、高松第一高等学校、香川大学経済学部卒業
- 昭和55年香川県庁に入庁。
- 総務、土木、経済労働、環境保健、生活環境、政策部に25年間勤め、平成17年に退職。
- 社会保険労務士・行政書士の資格を持ち、医療・年金制度、許認可制度にも詳しい。

ぜひ、後援会にご加入ください。

皆さんの温かいご支援をお待ちしております。別添のハガキにて、住所・氏名をお書きのうえ、郵便ポストに投函していただければ有難いです。（切手不要）

三野後援会事務所

高松市東八セ町 12-11 竹内ビル

